



まだまだ暑いですね。体調には気を付けていきましょう！



「みたて・つもり」の世界は「生活の鏡」

2~3歳の子どもたちの遊びを見ていると、「よくもまあ、飽きもせずに同じことばかりをくり返しているなあ」と言いたくなることがあります。しかし、よく見るとけっして単純なくくり返してではありません。器から器へ移しかえたり、スコップでくって器のなかに入れ分けていく遊びのなかにも、何か具体的なイメージがあって、それを反映した子どもなりの意味があるようです。

2~3歳の子どもたちの、一見変化に乏しい遊びも、子どもなりのみたてやつもりの世界があります。葉っぱを敷いて、その上にお砂をのせて、トントンと叩いている女の子に「何つくったん?」と問えば、「カレーライスつくったねん」と返ってきました。さらに、「きのう、おかあちゃんとつくったねん」と補足してくれました。なるほど、昨日の夜、本当におかあさんとカレーライスをつくって、ジャガイモを包丁で切らせてもらったのかもしれません。あるいは、ごはんの上にカレーをかけるしごとをさせてもらったのかもしれません。

この時期の子どもたちの「みたて・つもり」の世界は、「生活の鏡」です。1歳半ころの発達の質的転換を達成していくときに、おとのしごとへの憧れの心を芽生えさせ、日々の生活のなかでその憧れをひとつひとつ実現しながら、ここまで成長してきたのでしょうか。そして、この「みたて・つもり」の世界は、これから子どもたちの発達にとって、とても大切な「発達工場」です。子どもは、この「みたて・つもり」の世界の楽しさを知ると、経験の世界をイメージして呼び起こし、そしていっそ「みたて・つもり」を豊かにしていこうとするのです。「みたて・つもり」の世界があることによって、しごとへの憧れの心がいっそ高まってくるともいえるでしょう。つまり、「みたい・つもり」はイメージの力の「製造工場」であり、子どもが生活経験を広げていこうとするエネルギーを生産する工場でもあるのです。

このイメージの力が、幼児期の子どもの表現を豊かにていきます。それは、描く・つくる

活動だけではなく、はなし言葉という媒体を通じて豊かになっていくことでしょう。そして、やがては、イメージの豊かなはなし言葉が文脈をつくる力にも結びつき、書きことばの世界をつくる土台にもなっていくはずです。

イメージの力のたいせつさ、そして「みたて・つもり」あそびのイメージ製造工場としてのたいせつさが認識されているゆえに、障害をもった子どもたちに「みたて・つもり」あそびを直接指導する発想があります。もちろん、あそびのきっかけ、素材の発見、先生や友だちとのイメージの共有などを導く指導は、適切であるなら、望ましいことです。しかし、あそび方を手とり、足とり教えるのは、子どもたちが主人公になって「みたて・つもり」の世界を発展させていくという基本的なことを認識していない対応といえるでしょう。一番求められるのは、再現してみたい生活経験の豊かさをつくることです。「みたて・つもり」こそ、「生活の鏡」なのですから。

参考文献 『発達の扉 上』 白石 正久 著

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

次回のめだか教室は…

めだか教室①…10月14日(火) 9:20~11:15 →さんぽ をします

◎持つて来る物 シューズ・着替え・水筒・帽子 ○動きやすい服装・靴

※保護者の方も動きやすい服装・靴でお願いします♪

めだか教室②…10月28日(火) 9:20~11:15 →さんぽ をします

◎持つて来る物 シューズ・着替え・水筒・帽子 ○動きやすい服装・靴

※保護者の方も動きやすい服装・靴でお願いします♪

『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。（おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください